

## 1 自己評価及び外部評価結果(さくら)

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570101044		
法人名	(株)ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	大津ケアセンターそよ風		
所在地	滋賀県大津市瀬田3丁目18-20		
自己評価作成日	令和4年11月22日	評価結果市町村受理日	令和5年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 滋賀県介護福祉士会		
所在地	滋賀県草津市笠山7丁目8番138号 滋賀県立長寿社会福祉センター内		
訪問調査日	令和4年12月22日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた静かな環境に恵まれ、利用者は施設内で実った季節の果物に触れることができる。施設内は明るく清潔な空間で心地よく過ごせるように整頓されている。利用者の重度化が進む中、最後まで住み慣れた環境でご本人らしい生活が送れるよう協力医との医療連携の下、終末ケアを希望される方には対応している。現在コロナ禍で、外部への参加やボランティアの受け入れが出来ていない状況であるが、職員は皆様の健康を第一に考えて対応している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

春は桜、秋は紅葉が美しい瀬田川沿いの閑静な住宅街に「大津ケアセンターそよ風グループホーム」はある。ホームのリビングや居室からは季節の移り変わりが見える。ホームの広い敷地内で筍の収穫や栗拾いを楽しみ共同で下ごしらえをして、季節を味わう一品となると聞く。一階は、デイサービスが運営されており職員研修等で協力関係にありお互いに高め合うことができる。また重度化されてホームの一般浴では入浴が困難になった方でもデイサービスの特殊浴槽で安全に入浴の支援がされている。職員は、利用者の特性や思いを把握し共有して、一人ひとりのペースに合わせた自立(律)支援に努めている。重度化された場合、本人・家族の意向を確認しながら医療関係機関と連携しホームで出来る支援を気負いなく自然体で行っている。

## renkei

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		取り組みの成果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の理念を掲げている。職員が常に意識できるよう見える所に掲示している。グループホームのパンフレットにも理念を明記している。	全職員が目につきやすい事務所やリビングに理念を掲げて意識づけをしている。新入職者には、ベテランの職員が日々の暮らしのケア場面で指導して実践につなげている。	日々の実践の中でどう活かされているか、確認と振り返りの機会をもたれることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過の為、交流は中断している。	現在は、コロナ禍で自粛となっているが、以前は、地域の自治会館やホームの文化祭、習字のボランティアの方々との交流があった。今は、運営推進会議を通じ情報の交換をして収束後に備えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症や介護に関する相談窓口を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ過の為、会議は中断している。近況状態などは新聞と共に郵送することで伝えていたが、コロナ感染で療養期間があった為、電話で近況報告している。話し合いは出来ていない。	今年度は、ほぼ書面でホームの現状・行事・活動報告を詳しく議事録にして自治会・福祉委員代表・地域包括・家族全員に知らせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアマネを通して、制度上不明な点などは介護保険課に確認をしている。包括支援センターには報告書作成、郵送しているが、積極的に取り組み伝える事はできていない。	コロナ対応についてや介護保険関係など疑問なことはすぐに相談できる関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を定期的実践している。事故防止のケアが身体拘束にあたらないか確認をしている。会議の内容を回覧し全職員に周知できるようにしている。	同法人のデイサービスセンター職員と合同で月1回は、実際のケアの事例をあげて身体拘束をしないケアについて振り返り確認している。外へ出たい傾向にある方には、本人の思いを探り納得出来る声かけを職員間で共有し対応に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を定期的実践している。職員同士で常に意識を持ち対応している。事故防止のケアが身体拘束にあたらないか確認をしている。会議の内容を回覧し全職員に周知できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がいるので、担当者と日常の事や入院・退院にいたる相談などを話し合い決定している。権利擁護について学ぶ機会を研修で設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけ分かり易く説明をしている。不安や疑問については、経験談や事例を用いて説明し安心出来るように話をしている。気軽に話せる雰囲気作りも大切にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に意見箱の設置や苦情相談窓口がある事を説明している。運営推進会議や家族の面会時に意見や要望を聞き、ミーティングなどで検討し実践に繋げることが出来るようにしている。	運営推進会議の参加を全家族等に呼びかけ意見や要望を聞く機会としていたが現在はコロナ禍で書面での報告をし意見を伺っている。感染対策で制限付きの面会であるが意識的に聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の各ユニットでのミーティングや施設の全体会議で意見や要望を話せる場が設けられている。定期的な個人面談もなされている。	会議や日々のミーティングでも意見や提案はしやすく、センター長や管理者との個別面談でも話す機会があると職員より聞き取った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員同士で協力しながらやりがいを持ち働ける職場となるように努力をしているが、職員不足が続いているため就業環境が万全とは言い難い。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により、ズームでの会議の参加をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社組織の中での研修や協議会への参加をズームで行い交流を図っている。他施設の意見を聞き良い方法を取り入れたり、困難事例を話し意見を求めサービスの向上に取り組んでいる。コロナ禍の為訪問は行っていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所面談時にご本人の希望や好み、こだわりなどを聞くようにしている。入所後も会話を交わしながらご本人の求めている事や思いを引き出せるような話の進め方をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が介護してきた中での困っていたことを知り、今後の介護についての心配なども面接時に何うようにしている。家族の思いは真摯に受け止め傾聴し同意を示し安心して頂けるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いを確認したうえでアセスメントし、どのようなサービスが必要か検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、家事や作業が出来ることは協力してもらえるようにしている。普段の何気ない会話で互いどうしたらよくなるか等を聞くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時には、日ごろの様子を詳しく伝え状態を正しく理解して頂いている。ご本人、家族の課題を理解し本人と家族の絆が続けられるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防の観点から面会の規制があり、外出が出来なくなっているが、電話で話をする等の支援を行っている。	感染対策のため制限付きであるが馴染みの友人の来訪や電話での交流が継続できる様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣向が合う方の席を近くにしたりしている。他者と楽しみながら出来る作業やレクで関わり合いを持てるようにしている。又、他者に対しての過ぎる干渉がないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居になられたご家族様からの相談もある。ご家族様の考えを傾聴し次に相談すべき機関や質問内容などについてアドバイスしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネジメントをする時はご本人の意向を聞いている。上手く言葉で表現できない時は、負担の会話の中から本人の希望を探している。	日々の暮らしのケアの中で何気ない会話やしぐさから思いや意向の把握に努めている。家族の意向も反映させながら介護日誌に記録しカンファレンスで検討し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居初めに、今までの生活歴や日常生活の過ごし方を本人、家族も含めて聞き把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方のペースを理解して、その方のペースで過ごして頂いている。ADLに合わせて出来る事を出来る範囲で生活リハビリとして行ってもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本3か月に1回カンファレンスを行い、必要な介護の見直し再確認など話し合っている。	利用者には、直接思いを聴き、家族等には現在の状況を伝えながら思いや希望を聞いて介護計画を作成している。ケアプランに沿った介護記録をもとに職員間でカンファレンスしてモニタリングしている。	コロナ感染の状況をみながらモニタリングや再アセスメントのカンファレンスに本人・家族の参加が出来ればいいですね。新たな課題が見えて来ると思われます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践での結果等について気付いたことはケース記録に残している。また、スタッフ間で共有できるように、その情報を元に介護計画に充てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の生活歴や趣味などを聞き友人作りや趣味の活動の継続が出来るようにしている。ユニット間での交流もあり、将棋やオセロの対局をする事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染防止の為地域資源の活用が出来ずにいる。感染対策を万全にし地域の訪問美容師に協力いただき入居者様のオシャレのQOLの保持を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の医療連携の主治医でなく、ご家族様が在宅時のかかりつけ医を希望された場合は希望に応じている。	本人・家族の意向を確認しホームの提携医で往診や通院をされている方が多い。専門医等への通院は基本家族同行となっているが状況に応じて職員が同行することもある。診療情報は家族に伝え医療機関と共有し健康管理がされている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師に入居者様の日々の状態を報告しアドバイスをもらっている。必要であれば受診対応の手配をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は入居者様の状況、薬剤情報を伝えている。退院時に向けてのカンファレンスにあたり入院中の様子を相談員、ナースに確認するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度から予測できる段階の事を事前に説明している。本人やご家族様が最期をどのように過ごしたいかを確認し、施設でのターミナルを希望した場合は、かかりつけ医(連携医)の説明を聞く機会をもってもらい了承された上でプランを作っている。	契約時に重度化した場合、ホームで出来得ること等を説明し本人・家族の意向確認をしている。実際に体調の変化があった場合は随時、本人・家族に確認しながら医療関係者と話し合い支援している。職員は、急変・応急のフローチャートに沿って落ち着いて穏やかな対応を心がけ支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、応急のマニュアル、フローチャートがあり、状態に応じて対応、すぐに上の協力を得られるように報告体制をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練あるが、地域との協力体制までは出来ていない。	定期的な避難訓練が行われている。災害時には、同法人職員による協力体制や避難場所の協力体制が出来ている。備蓄の点検も定期的に行われている。	様々な災害を想定した連絡方法や避難方法を運営推進会議等で継続的に話し合えればいいですね。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	状態の違いがあるため、言葉を選びながら不安や不満を持たないような声掛けをし笑顔での対応をしている。プライドや自尊心を傷つけることがないように心がけている。	男性職員は夜勤専従者1名、男性入居者も2ユニットで1名。排泄や入浴は実質同性介助である。排泄誘導は2時間おきの声掛けの他、態度や尿(便)臭で判断し臨機応変に対応している。日報から得た個人の思いに配慮しさり気ない声掛け・誘導を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	プランを考える時にご本人の気持ちを聞くようにしている。自己表現が困難な方には日頃の話す内容や、いくつかの選択肢を用意して表現しやすいような働きかけを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクの参加、休養の有無はご本人に確認するようにしているが、その日をどのように過ごしたいか希望に添えているかは不明な部分がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の好みに合わせ一緒に服を選んでいる。自身で選べる方には選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ過のため一緒に作業は難しいが個々で出来ることは準備を手伝って頂き、片付けは主にお盆拭きをお手伝いして頂いている。	食事は施設内で手作りしている。コロナ禍前は外食もしていた。今は実施していないが、食事を楽しんで貰う為、ホットプレートでお好み焼きをしたり、ちらし寿司、正月にはおせち料理、秋には栗ご飯等季節を感じてもらい、ワンパターンにならないような努力をされている。利用者参加は高齢化が進んで	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人で完飲できる方には見守りし、介助が必要な方には誤嚥に気を付けながら飲み込み確認、嚥下状態や能力に応じその方が食べやすい状態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、それぞれに応じて清潔保持のため、残渣がないようにケアを行っている。義歯の方には夜間、洗浄剤を使用し消毒をしている。また、スポンジブラシを使用し仕上げの介助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自身で行く意思がない方には、定期的に誘導して清潔保持をしている。	定時誘導と必要時誘導を行っている。定時誘導ではタイミングが合えばトイレで排泄できることがあり、排泄の間隔把握に役立っている。おむつ利用者は無く、普通の下着にパットのみ当てている入居者もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様に応じて取り組んでいる。便秘の方にはオリゴ糖や牛乳、ヨーグルトを提供し工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとり楽しめるように湯船につかりたい方や、入槽出来ない方にはシャワー浴など心身の状態に合わせて支援している。	個浴であり、入居者の要望があれば、入浴日の変更をする。介助を希望しない入居者でも安全の為見守りを実施している。個浴での入浴が困難な入居者は、併設しているデイサービスの特殊浴槽を利用して安全に入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意思を尊重している。体力に負担が大きい方は日常的に身体を横にして臥床し休んでもらい、負担軽減の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳、薬剤師からの管理計画表など、個別に仕分けられ確認できるようにしている。変化があればドクターに連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合った楽しみを日々提供している。塗り絵や雑誌など気分転換できるように日々過ごしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍の為、外出は控えている。	コロナ禍であり、本格的な外出は行っていないが、施設の駐車場での外気浴や、近隣の散歩、花壇を愛でたり、外泊を伴わない家族との外出、友人の訪問は受け入れている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症状が重度化しており、現在はお金の使用はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お手紙を書くことは難しいが、家族様からの電話では話している。ご本人から電話をかけることは難しい為、希望があれば介助にて電話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を出来るだけ感じてもらえるようにお花を飾ったり季節の作品を壁面に飾ったり工夫している。	リビングは広々としており、日当たり良好。掃き出しサッシから広いベランダに出られ天気の良い日は日光浴、外気浴を楽しむ。テレビの前にソファを設置、寛ぎスペースになっている。事務室から左右のユニットが見渡せ見守れる。リビングの一角にキッチン、食事時間前になると美味しそうな匂いが自然と漂っていた。空調も十分である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	常に皆さんがリビングに居られるため、楽しい会話が盛り上がることも多くある。利用者様同士で話すこともあり、自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の好みに合わせて自分の作品や家族写真を飾ったり、居室にテレビを持ち込み楽しんでいる。	お気に入りの家具を搬入している入居者や、中には誕生から持っている市松人形を大切に飾っている方もあった。その他、枕や寝具の持ち込み、家族写真、配偶者の遺影を飾っている入居者もあった。入居者が落ち着くスペースが担保されていた	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立度に合わせて自由に過ごして頂いている。常に見守りの目を向けている。		

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	就業環境の整備 人員不足が続いている。	人員確保に努める。	求人募集 ケアアシスタントの配置	12ヶ月
2	49	日常的な外出支援 利用者様の重度化に伴い、日常的な外出が困難となっている。	新型コロナウイルス終息後、個別対応をし外に出る機会を増やす。	近隣への散歩や施設敷地内を歩くなど気分転換をして頂く。	12ヶ月
3	13	職員を育てる取り組み 職員不足が続いており、人員に余裕がないため研修に参加が出来ていない。	意欲を持ち、様々な分野で外部研修に参加できるようにする。(リモート研修)	人員を確保し、ゆとりを持って働けるようにしていく。自ら望む研修に参加できるようにしていく。職場の積極的な支援の下で自己研鑽に励めるようにする。	12ヶ月
4	35	災害対策 地域との協力体制が取れていない。	新型コロナウイルス終息後に、避難訓練に地域の方に参加をして頂き、協力体制を築く。	避難訓練時に地域の方に参加をして頂く。	12ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

### 3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取り組んだ内容	
実施段階		( ↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④その他( )
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="radio"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="radio"/>	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="radio"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="radio"/>	⑤その他( )